



天気 曇りのち雨
今日は、縄文時代に使われていた土器づくりにチャレンジしました。

まず、(公財)滋賀県文化財保護協会の鈴木康二先生から、縄文時代の遺跡や貝塚の発掘調査の成果を踏まえ、そこから想定される縄文時代のくらしと土器づくりについて学びました。



続いて、陶芸家の宮本ルリ子先生の指導で、粘土を使って縄文土器づくりに取り組みました。

まず、ボール状に丸めた粘土を平たく潰して、土器の底になる部分を作り、それを裏返したホウノキの葉の上に置いて、葉脈の模様をつけました。

次に底の上にドーナツ状に伸ばした粘土を2段に重ねて、器の下の部分の形を作りました。



昼食は、お肉たっぷりの牛丼ときのご汁、フルーツゼリー。毎回、料理を作っている調理サポーターに感謝して、お腹いっぱいいただきました。

午後からは、土器の上の部分の形づくりと飾りつけを行いました。

小学3~4年生には少しむずかしい作業でしたが、先生やサポーターの助けを得て、竹べらやひもで縄文土器の特徴である網目の模様を付けたり、粘土を細い棒状にして取っ手や飾りを付けて、世界で一つしかない土器をつくりあげました。



形ができた土器は、これから4週間、倉庫で十分乾燥させ、7月28日の縄文の森塾で野焼きをして、翌日に取り上げる予定です。どんな土器が出来上がるか楽しみです。

